アスベスト被害を伝えるネットワーク

…絆から縁へ (vol.6) 令和元年 10月 31日

台風19号、その後の豪雨により犠牲になられた方に 心より哀悼の意を表し、今もなお厳しい生活を強いられている 被災地の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。



昨年「大阪アスベスト弁護団」の村松昭夫先生から連絡をいただき「麻袋再生業」のことをお手伝いしました。きっかけは、厚生労働省からあるご遺族のもとに届いた一通の手紙からでした。ご遺族のAさんが村松先生に相談されたことから始まりました。提訴から9ヶ月して、無事全員の和解が成立しました。

「石綿製品製造工場」の労働者から始まった「泉南型和解国賠」は、「流通」という新たな分野まで拡がりました。もしかしたらもっと拡がり、当初の想定よりも多くの方が救済されるかもしれません。

石綿被害に遭った方々全てが国から補償を受けられる制度を作りたいです。

労働災害、環境被害に関係なく、全ての被害者の救済を…これが最初の私たちの目標でした。 以下は、「大阪アスベスト弁護団」HPからの紹介です。

泉南型石綿国賠一麻袋(ドンゴロス)再生工場で初の和解成立!

2019.09.30

2018年9月27日(金)、アスベスト(石綿)原料が入っていた麻袋(ドンゴロス)を再生・加工する工場で働き、中皮腫や石綿肺を発症して亡くなった労働者(被害者)4人の遺族が、国に損害賠償を求めて大阪地裁に提訴していた裁判につき、被害者全員の和解が成立しました。

麻袋の再生作業とは、アスベスト (石綿) 原料が入っていた麻袋 (ドンゴロス) を解体して、 絨毯の下地や水道管等に巻くリボン状 (帯状) のものに再生する作業です。1970年代ま で行われ、堺市を中心に大阪府内に約90カ所もの工場があったため、まだまだ潜在的な被 害者が埋もれていると考えられます。泉南の石綿工場と同様、中小零細・家族経営の工場が 多く、国による賠償・救済がなされる意義は大きいと言えます。お心当たりの方は、お気軽 に当弁護団までご相談ください。

*時事通信[麻袋の石綿訴訟が和解=国、遺族に5720万円-大阪地裁]

https://www.jiji.com/jc/article?k=2019092701120&g=soc

*毎日新聞 [麻袋石綿訴訟が和解 遺族に5720万円支払い 麻袋再生工場では初 大阪地裁] https://mainichi.jp/articles/20190927/k00/00m/040/240000c

- *産経新聞[麻袋リサイクル作業で石綿被害、国と元労働者が初の和解 大阪地裁] https://www.sankei.com/west/news/190927/wst1909270049-n1.html
- *大阪アスベスト弁護団「麻袋(ドンゴロス)再生・加工、泉南型石綿国賠を初提訴] http://www.asbestos-osaka1.sakura.ne.jp/news/1393/

参考資料です





日本に輸入された麻袋(石綿入り)の流れ

麻袋は堺市内において地場産業となり その当時、村の中はミシンの音が鳴り響いていた



輸入されたアスベスト輸入量の推移

麻袋再生工場は、自宅の納屋だった



麻袋再生作業の手順



再生作業は各家の納屋でも作業が可能でした

日本に輸入されたアスベストは約 1000 万ト ンといわれています。そのうち約半数近い数が 麻袋で運ばれました(麻袋の後にPPに切り替 わりました)。単純に計算すると 8000 万枚の石 綿入り麻袋が再生業に流通していたことになり ます。

あなたの身近にも存在していたかもしれません。



患者と家族の会「堺対策チーム」は今年もまたアスベスト検診(試行調査)の案内を100 0枚ポスティングしました。あまりの猛暑に茹だっていましたが、「毎年やっていることだ し」と皆で決意して頑張りました。以下はその時のチラシです。

ちなみに、試行調査は今年度で終わりますが、来年度からは5年計画で新たな取り組みが 行われます。現在環境省はその内容を検討しています。基本的には「アスベストばく露の不 安がある方は日本のどこに居住していても受診できる」制度にするべきです。もちろん検診 の内容はもっと検討が必要です。

以下は、先日ポスティングしたチラシです。(裏面は省略)

アスベスト(石綿)って何?

アスベスト(石綿)が危ないって知ってる? **アスベスト**(石綿)の病気って知ってる?

アスベスト被害は史上最大の産業災害(公害)です!

アスベスト (石綿)は、日本でも約1000万トンも輸入、使用されてきました。 2005年6月のクボタショックで、私たちはアスベスト被害の深刻さ知りました。しかし 残念ながら、現在も被害者は増加しています。

アスベストの歴史は古く、古代エジプトでは、ミイラを包む布として、古代ローマでは、 ランプの芯として使われていました。日本では、『竹取物語』に登場する、火に入れても燃えない 「火鼠の皮衣」も、当時実在したとすればこれもアスベストだといわれています。

アスベストの繊維 1 本は髪の毛の5000分の1程度の細い繊維です。耐久性、耐熱性、耐薬品性、電気絶縁性などの特性に非常に優れ、安価であるため、「奇跡の鉱物」として重宝され、建設資材、電気製品、自動車、家庭用品等、様々な用途に広く使用されてきた。しかし、空中に飛散したアスベストを吸入すると数十年後に、肺癌や中皮腫の誘因となることが指摘され「静かな時限爆弾」と呼ばれています。

堺市のアスベスト問題

私たち「中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会」の調査により、堺市では戦後から1970年代にかけて堺区、中区、北区の数か所にあった石綿入り麻袋再生工場において、元労働者や近隣住民の方がアスベストが原因で中皮腫、肺がん、石綿肺などになり亡くなっていることが判明しました。またアスベストを吸ったことで起こる病変の胸膜プラ

ーク(胸膜肥厚斑:良性の所見)がある方も多数確認されました。

(図は、アスベストが原因で発症する病気)

かつて、近所にゴロス(麻袋)を扱っていた工場がありませんでしたか?

麻袋関連の仕事をしていた元労働者、そして家族はアスベストを吸い込んでいる可能性が有ります。 また、麻袋だけではなく、堺市には他にも石綿製品取り扱い事業所が多くありました。堺市は全 国で初めての、「工場近隣住民の中皮腫発症」が確認されました。堺市のアスベスト検診はご自身 の健康リスクを知るきっかけとなる大事な検診です。ぜひアスベスト無料検診を受診しましょう!(裏面参照)

堺市と東京労働安全衛生センター共催で「アスベスト勉強会」を開催

9月15日(祝)に、堺市北区役所会議室で

「石綿関連法規の改正と自治体」というテーマで勉強会がありました。

これは、NPO法人東京労働安全衛生センターが環境再 生保全機構から助成金を得て各地で実施している企画の 一環です。今回は堺市も「共催」で参加しました。堺市 開催は今年2月に続き2回目です。

この勉強会の周知には地元の仲間が周知活動に頑張りました。東京から送られてきたチラシが少なかったので、地元の長谷川俊英堺市議会議員の事務所で1000 枚増刷をして頂きました。(写真は毎日新聞記事)



チラシを手に、再び堺対策チームのメンバーが猛暑の中を奮闘しました。直前にも「検診呼びかけ」のチラシ1000枚をポスティングしているので、関係者の方たちは本当にお疲れ様でした。お陰様で、当日は60名の参加者で会場がいっぱいになりました。この中には勉強会と併せて「堺ツアー」にやってきたネットワークの仲間数人もいます。









愛知教育大学の榊原洋子先生の「スマートフォンでみるアスベスト」は好評でした。参加 者から「今後もこのような勉強会はぜひ参加したい」との声もききました。

堺ツアーと泉南訪問

勉強会翌日は、直木賞作家故藤本義一氏ゆかりの「クスノキ」が堺市の「海とのふれあい広場」に移植されているので、クスノキの成長を確認しに行きました。西宮市から引っ越してきた時は、枝葉を切り取り「丸坊主」状態でしたが、逞しく根付いていました。藤本義一氏の生まれ故郷である堺市に帰ってきたクスノキも安心していることでしょう。阪神大震災後は「浜風の家」で震災遺児たちの心の支えになったクスノキは、今後は堺市民の「いこいの場」で、市民に愛され続けることでしょう。

今年の7月に「世界遺産」に登録された「百舌鳥・古市古墳群」最大の古墳である「仁徳 天皇陵」を見学しました。あまりの大きさに「これでは見えないね」と。

…でも見た方がいます!

前号で紹介した「鳩ばあさん」は遊覧テスト飛行に乗って上空から写真を撮っていました。







「ぜひ泉南に行きたい、クボタ集会で出会った岡田陽子さんに会いたい」という希望があり、「アトリエ泉南石綿の館」を訪問しました。アトリエでは館長の梶本逸雄さんたちが出迎えてくださいました。工場跡地見学も予定していたのですが、私たちの都合で到着が遅くなりアトリエでの懇談のみとなりました。

アトリエの展示物などの説明を受けた後は、岡田陽子さんの体験談に皆さん真剣に耳を傾けて、岡田さんを激励していました。

「アトリエ泉南石綿の館」とは

大阪府泉南市の町医者、故梶本政治先生は、早くからアスベストの危険性を訴えていましたが、当時は周辺の方や企業、行政から理解してもらえませんでした。それどころか「奇人・変人」扱いされていました。その梶本医師が遺した資料を息子さんである梶本逸雄さんが元診療所の場所に開設した資料館です。

アスベスト運動にかかわる方は、いえそうでない方もぜひ行って梶本先生の足跡を感じて欲しいと思います。信じたことは「ひとりでもやれるんだ」という姿勢は「公害Gメン」といわれた故田尻宗昭氏と通じるものがあります。梶本先生が後世に伝えることを感じてください。以下、アトリエのFACEBOOKを紹介します。

 $\frac{\text{https://www.facebook.com/pages/category/Monument/\%E3\%82\%A2\%E3\%83\%88\%E3\%83\%AA\%E3\%82\%A8\%E6}{\text{\%B3\%89\%E5\%8D\%97\%E7\%9F\%B3\%E7\%B6\%BF\%E3\%81\%AE\%E9\%A4\%A8-414619632655673/}$





今もベビーパウダーにアスベストが!?

身近にあるアスベスト含有商品の代表格ともいうべき「ベビーパウダー」の情報をネット 記事から貼り付けます。しかしこれはかなりの低濃度で、日本基準では「論外」のようです。 過度な心配は必要ないですが、身近にある危険(解体など)には敏感になってください。

米 J & J、ベビーパウダー自主回収=石綿混入の恐れ

2019年10月19日06時55分

【ニューヨーク時事】米医薬品・健康関連用品大手ジョンソン・エンド・ジョンソン(J&J)は 18日、昨年米国内で製造・出荷されたベビーパウダー約3万3000個を自主回収すると発表した。当局によるサンプル調査で発がん性物質のアスベスト(石綿)が検出されたため。同社のベビーパウダーをめぐる訴訟が相次いでおり、疑念が一層強まりそうだ。

J&Jによれば、米食品医薬品局(FDA)が実施した調査で、ベビーパウダー1個からごく微量のアスベストが検出された。同社は「過去40年間に実施した数千回の試験で、製品にアスベストが含まれていないことが確認されている」と改めて強調した。

タルクとは?

上記の記事にある「ベビーパウダー」はタルクという粉のことです。 タルクは非常に多くの場面で使用されています。今回はタルクについて少し記載します。 日本タルク株式会社のHPから転載しました。

タルク(和名:滑石)は層状鉱物で、石の状態で採掘されます。

原石は白色、ピンク色、薄緑色、灰色などの色があり、粉砕することで白色、及び灰色をした粉体になります。

化学名は「含水珪酸マグネシウム $(Mg_3Si_4O_{10}(OH)_2)$ 」です。物理的性質は、真比重 2.7、モース硬度 1 と無機鉱物中で最も軟らかく、耐熱性に優れ、化学的にも安定しています。 世界各地で産出されますが、純度が高く、工業的に利用価値が高い原石の産地は、中国、インド、パキスタンなどがあります。

タルクの主な用途

プラスチック 充填材(剛性、耐熱性、寸法安定性の向上)、結晶核剤

製紙 填料、ピッチコントロール剤、塗工剤

塗料 体質顔料(粘度・光沢の調整)、粉体塗料

電子部品 積層板、成形品、レジストインキ、接着剤

セラミックス 陶磁器の釉薬、ハニカムセラミックス原料

ゴム 充填材(耐熱性、補強性等の向上)、離型剤

化粧品| ファンデーション、ボディーパウダー、アイシャドウ、口紅

医薬品 錠剤の賦形剤、滑沢剤

食品 ガムベース、製造助剤(くっつき防止)

農業 肥料の固結防止剤、農薬のキャリアー

製紙 填料、ピッチコントロール剤、塗工剤

塗料 体質顔料(粘度・光沢の調整)、粉体塗料

電子部品 積層板、成形品、レジストインキ、接着剤

セラミックス 陶磁器の釉薬、ハニカムセラミックス原料

|ゴム| 充填材(耐熱性、補強性等の向上)、離型剤

|化粧品| ファンデーション、ボディーパウダー、アイシャドウ、口紅

医薬品 錠剤の賦形剤、滑沢剤

食品 ガムベース、製造助剤(くっつき防止)

農業 肥料の固結防止剤、農薬のキャリアー



こんなにも多く出回っているタルクにアスベストが!?

はい「タルクの中に不純物のひとつとしてアスベストが混入している」のです。

鉱山で出来たタルクは、同じく鉱物のスベストが混入することが有ります。このアスベストはタルクの精製過程において除去されますが、たまに残存していたことが有ります。しかし現在では厚生労働省の規定のもと厳しく管理されています。

○石綿を含有する粉状のタルクの製造、輸入、譲渡、提供又は使用の禁止の徹底について

(平成 18 年 10 月 16 日) (基安化発第 1016002 号)

(全国タルク協議会会長・社団法人日本化学工業協会会長・社団法人日本化学工業品輸入協会会長・日本化粧品工業連合会会長・日本製紙連合会会長・日本製薬団体連合会会長・社団法人日本セラミックス協会会長・社団法人日本塗料工業会会長・農薬工業会会長あて厚生労働省労働基準局安全衛生部安全衛生部化学物質対策課長通知)

労働安全衛生法施行令等の一部が改正され、平成 18 年 9 月 1 日から、石綿をその重量の 0.1%を超えて含有する製剤その他の物の製造、輸入、譲渡、提供又は使用が禁止されたところであり、その周知については、平成 18 年 8 月 23 日付け基発第 0823003 号「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石綿障害予防規則等の一部を改正する省令の周知について」をもって既に通知しているところですが、今般、石綿をその重量の 0.1%を超えて含有する粉状のタルクが製造、使用等されている事案が明らかになったところです。

つきましては、貴会におかれては、貴会会員事業場に対し、法令の遵守の徹底について引き続き指導していただくとともに、今回の事案等を踏まえ、下記の事項について周知徹底していただきますようお願いいたします。

記

1 粉状のタルクを製造、輸入、譲渡又は提供する事業者においては、石綿をその重量の 0.1%を超えて含有する粉状のタルクを製造、輸入、譲渡又は提供することは労働安全衛生法第 55 条により禁止されていることから、自らが取り扱う粉状のタルクについての石綿の含有率を確実に確認し、石綿をその重量の 0.1%を超えて含有する粉状のタルクを流通させないこと。

なお、タルク中の石綿含有率の分析方法として、平成 18 年 8 月 28 日付け基安化発第 0828001 号 「天然鉱物中の石綿含有率の分析方法について」があること。

2 粉状のタルクを原料等として使用する事業者においては、石綿をその重量の 0.1%を超えて含有する粉状のタルクを使用することは労働安全衛生法第 55 条により禁止されていることから、上記 1 の事業者等から粉状のタルクの譲渡を受けるときには、石綿がその重量の 0.1%を超えて含有していないことを確認すること。

元看護師の河村三枝さんが手術用のゴム手袋再生作業の時にタルクを吸って中皮腫を発症したニュースは衝撃的でしたね。まさに、河村さんが取り扱っていたのがタルクでした。またタルクは広く使用されていたために、私たちが気づかない場所でもアスベストばく露している可能性があります。

(日本看護師協会HPより)

手術用手袋再利用のためのタルク吸入で労災認定

2012年8月29日

7月24日、山口県の准看護師が中皮腫を発症したのは、1981年~86年に医療用ゴム手袋を再利用するため、アスベスト(石綿)を含む粉(タルク)を使った作業をしたのが原因として、山口労働基準監督署が労災認定しました。

ゴム手袋等の再利用のために、アスベスト(石綿)が含まれる粉(タルク)を利用することは、1980年代まで一般的に行われていました。

現在は、アスベスト0.1%以上含むタルクの製造や使用は禁止されています。

みなさんの職場でも、タルクが原因となった中皮腫の発症とその労災認定について情報共有 を行ってください。

勉強会に参加した方から「もっとアスベストの勉強したい」と声があがりました。そこで 今回は身近なタルクのことをご紹介しました。泉南のアトリエ訪問も大きな刺激になったよ うです。もっと多くの人に紹介したいです。

紅葉の便りが届く季節となりました。葉っぱが真っ赤に色づくのは、厳しい冬に備えて心のストーブを燃やしているのでしょうか。私たちもしっかりと心を暖めましょう。

「ボランティア3原則」(自主的、他者に強要しなく、足を引っ張らない)が好評です。 最後になりましたが、皆さまのご健康をお祈りいたします。

アスベスト被害を伝えるネットワーク

<u>https://amiantnet.wixsite.com/mysite</u> (見えない恐怖アスベスト) 担当:古川和子